

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
平成30年 9月14日 (金)
- 2 確認箇所
既設多核種除去設備
- 3 確認項目
既設多核種除去設備 (C) で発生した漏えい等事象の対応状況
- 4 確認結果の概要

今年3月以降に既設多核種除去設備 (C) で発生した以下の漏えい事象について、対策の実施状況等を聞き取りするとともに、措置状況を視認できる箇所について現場を確認した。

ア クロスフローフィルター (CFF) ドレンラインからの滴下事象
(平成30年3月2日発生)

【事象の概要】

当該設備の鉄共沈処理プロセスにおけるクロスフローフィルタドレンラインの配管溶接部から水が滴下したものの。

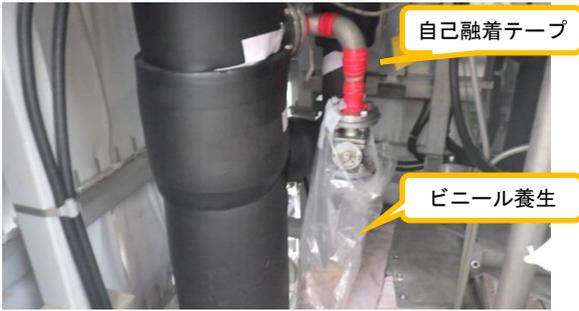
滴下した水は、クロスフローフィルタ (C) のスキッド1内に留まっており、外部への流出はなかった。

(聴取内容)

- ・滴下発生箇所は、ドレン配管のエルボ部であり、対策として、自己融着テープによる補修を実施し、停止中の当該設備B系の同一配管を外し、C系への付け替えを3月29日に実施した。原因は調査中であるが、今年度中に当該設備B系の配管も含め、順次、新しい配管に取り替える予定である。

(現場の状況)

- ・取り替えたドレン配管のまわりは、漏えい防止対策として、自己融着テープが巻かれており、ビニールで養生されていた。(写真1)



(写真1)

取り替えられたドレン配管の状況

イ 共沈タンクpH計からの滴下事象（平成30年5月16日発生）

【事象の概要】

当該設備のpH計を養生している袋から滴下したものの。その後pH計の前後弁を閉止し、滴下は停止した。

(聴取内容)

- ・滴下した原因は、pH計自体に緩みがあったことであり、対策として、pH計の増し締めを実施した。現在、当該設備を停止している。なお、停止中はpH計の校正は行わないこととしている。

ウ クロスフローフィルタースキッド2における漏えい事象

(平成30年6月9日発生)

【事象の概要】

前処理設備（ステージ2）におけるクロスフローフィルター（CFF）下部に漏えいしたものの。漏えいした水は、スキッド2内に留まっており、建屋外への流出はなかった。

(聴取内容)

- ・漏えい箇所はドレン弁であり、対策として、当該ドレン配管を取り外して閉止板を取り付けた。現在、ドレン配管の浸透探傷検査等の詳細調査に向けて調整中であり、当該調査の結果をもとに再発防止対策を検討する。

5 プラント関連等のパラメータ確認

各パラメータについて、前日と比べ有意な変動は確認されなかった。